

熊野古道～小辺路(こへち)～

【報告者】I丸 スージー

【日時】2016年5月4日～6日 【天候】晴れ・小雨

【参加者】I丸

《コースタイム》

5月3日 22:15 JR 博多駅 → 夜行バス → 大阪梅田

4日 9:30 なんば駅 → 電車 → 10:00 極楽橋駅 → 11:10 女人堂 → 13:10 小辺路
→ 14:40 幼行の入口 → 17:15 大股バス停 → 18:10 萱小屋跡 / テント泊

5日 6:15 テン場 → 7:40 伯母子小屋 → 10:30 三浦峠 → 15:15 西中バス停
→ 17:30 昴の郷 → 18:20 果無集落 作業小屋 泊

6日 6:00 出発 → 7:10 観音堂 → 9:50 八木尾 → 11:50 熊野本宮大社

《 報 告 》

2004年に熊野参詣道として世界遺産登録され、はや12年。もう人も少ないだろうと思いきって来ました。真剣に軽量化しなかったザックが重く、思った以上にきつい山歩きとなりました。

4日 晴れ：なんば駅から南海特急こうや1号で高野山入りする予定が、なんと切符が売切れ。自由席は無かったので、泣く泣く電車乗継で高野山へ向かう事となり極楽橋駅からのスタートが30分遅れた。ここから歩き出したのは3人だけだった。

女人堂から人が増え、さすがに有名な観光地に来た気分。金剛三昧院へ向かい、手前から右手に入り小辺路が始まる。新緑が眩しい爽やかな気分で歩くのが楽しかった。よく整備された古道である。道標も随所にあり、熊野参詣道登山マップも事細かに表示してあるが、距離は長い。本日の行程22kmも最後の急登でかなり疲れた。

テン場の萱小屋は、オーナーの方が占領されていて、テント泊の登山者にビールや食べ物をふるまっていた。テントは、5張り。7人の登山者が居たが、夜行バスでの睡眠不足で私達はすぐに爆睡した。

5日 晴れ：爽やかな気分で、急登から始まる。伯母小峠小屋の近辺は小さな沢が数本あり、





道標

水には困らないようだった。峠から三浦口まで長い下りが続き、足が痛くなる。吊り橋近くに自販機があったので大休憩。無人販売所で日本手ぬぐいを買った。民家の間を三浦峠へ登り、また下り、西中バス停に到着。これから7.2kmの舗装道路歩きとなる。だらだら登ったり下ったり、足裏に響くし、車の往来も意外と多かった。昂の郷と言う、昔キャンプ場もやっていた温泉施設に到着したが、現在は、もちろん幕営禁止。自販機でコーラを飲んで、最後の力を振り絞り、果無

集落への急登を登る。何処に TENT を張ろうかと迷い、トイレ横の駐車場に張ろうとしていたら車が止まり「雨になるかもしれんから、あそこの小屋を使っていいよ。電気もつくし。」と、神様が車に乗って現れた！トイレ横に作業小屋があり開けてもらえた。そこは、もうパラダイス！材木は積んであるものの十分なスペース。私達にはスイートルーム。二人で荷物を広げてくつろいだ。

6日くもりのち雨；三十三観音堂を見ながら果無峠までひたすら登る。まだ雨は降らず、風もあるので思ったより楽だった。しかし、そこからは、ひたすら下る。900m強下りきった所に八木尾バス停があり、そこから国道を歩き、三軒茶屋跡からは中辺路と合流し観光客も増え、熊野本宮大社に到着した。ここで雨が降りだし風も吹いてきたので、今回は、ここで終了とした。予定では、このまま中辺路を歩き熊野那智大社まで行きたかったが、次回の目標とした。



熊野本宮大社

熊野古道小辺路は、分岐での道標もしっかりしており、道中には、水場になる沢もたくさんあり、通過する集落には水場が設けてあった。水を心配する事が無かったので、水はもっと軽量化すべきであった。70kmの距離をボッカするのは、登山道が整備されていてもなかなか厳しいものと思った。次回は、心して挑もう。